

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

心と時間にゆとりを持ち、不祥事0に取り組むTEAM倉橋小

- 1 私たちは、法令等を遵守します。
- 2 時間にゆとりを持ち、安全運転を心がけます。
- 3 私たちは、子どもたちの思いを大切にします。

令和6年度 不祥事根絶のための行動計画

呉市立倉橋小学校
作成責任者 校長 高越 久美子

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○「不祥事は誰にでも起こる」との意識を持ち、不祥事防止や規範遵守に対する当事者意識をより高める必要がある。 ○仕事と生活との調和を図る取組をより一層進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修の方法や内容等を見直し、より体験的な研修、身近なヒヤリ・ハットや不祥事に係る記者発表資料等を事例にした研修等を実施し、当事者意識が高まるようにする。 ○時間外在校時間を確認しながら、ライフワークバランスを保つ。 ○交通事故及び違反件数0を達成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修に係るチェックリストやアンケート調査を行い、結果を共有するとともに、面談を通して、自己分析を行う。 ○「不祥事根絶に向けた本校の決意カード」を携帯する。 ○時間を生み出す工夫を重ね、ゆとりをもって業務を行う。 ○出張等、時間にゆとりをもつために、早めの出発時刻を設定し、表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理職による教職員への定期的なアンケートや面談を行う。 ○毎月時間外在校時間をチェックし、時間外在校時間が多い教職員に指導を行う。 ○出張時は出発時刻の確認を行う。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修の内容や研修方法が固定化している。 ○特に教職経験が短い教員にとって、ヒヤリ・ハットのイメージをもちにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修の内容や方法を改善し、自分ごととして主体的に取り組み、新たな気づきが生まれる内容にする。 ○組織で仕事を進めている自覚を高め、教職員同士のコミュニケーション、「報・連・相」と確認をさらに促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修を各部で担当している体制は継続し、分担して研修に取り組む。 ○県教委の資料等を積極的に活用する。 ○不祥事防止委員会等で情報交換を行ったり、校内巡回を行ったりすることで、不祥事防止に係るヒヤリ・ハット事例を整理し、未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○服務研修の最後には管理職から研修内容について助言を行い、各自を振り返る時間をもつ。 ○毎月の不祥事防止委員会で管理職と主任で情報交換を行い、状況を把握する。
相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○「性暴力、体罰、セクハラ相談窓口」の周知徹底をより進めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「性暴力、体罰、セクハラ相談窓口」の周知を繰り返し行ったり、「心と体のアンケート」と全員面談を長期休業明けに行ったりして、児童が相談しやすい体制をつくる。 ○全教職員で児童を見守る体制をつくり、諸問題の早期発見・解決に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校だより等で保護者に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 ○学期始めに、相談窓口の案内プリントを配付するとともに、アンケートや懇談会等で保護者から体罰、セクハラについて聴取する。 ○学期に1回、児童と教職員が面談をする機会を設け、児童の思いを知り、コミュニケーションを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとに、児童、保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。 ○懇談会における保護者からの聴取記録を作成する。 ○学期に1回以上面談し、気になる状況を生徒指導主事、管理職に報告する。

